

# 平成 30 年度事業報告(案)

愛の浜園

## 1. 重点課題に対する取り組みについて

### (1) 介護福祉士有資格者率のアップ

#### (外部環境)

・愛の浜園では、利用者の高齢化が進む中で、障がい者に対して提供する介護サービスの質が重要視されています。そのためにも、介護福祉士の有資格者率を上げて、質の高いサービスを提供いたします。

#### (重点課題に対する取り組み)

・3名の受験者に対して勤務シフトの変更などに配慮し、講習会への参加を促した結果、2名が合格しました。  
(平成 31 年 3 月末現在:介護福祉士有資格者:14 名、有資格者率:47%←40%)

### (2) 看取り研修の実施

#### (外部環境)

・利用者高齢化のために、直近 5 年間で 5 名の利用者が他医療機関で亡くなりました。その度に利用者及び職員の心理的負担が小さくありません。

#### (重点課題に対する取り組み)

・大和村診療所のドクターを講師に、7月と11月に看取り研修会を実施しました。

### (3) 障がい者理解への取り組み

#### (目的)

・施設を地域資源と捉えるとともに、発信力を高めることにより愛の浜園の取り組みを理解していただく機会を設けたいと考えます。

#### (重点課題に対する取り組み)

・ジャンベ活動を行い、その発表の場として、地元小学校の学習発表会、町内敬老会、病院夏祭り、近隣施設フェアのオープニングセレモニー等に参加しました。

### (4) 奄美病院との連携

#### (外部環境)

・奄美病院利用者の中には、入院の対象でない方や家族からの虐待等により行き場のない方が見受けられます。そのような方々の一時的な受入れ先として、近年愛の浜園の短期入所利用希望者が多く見られるようになりました。しかしながら、現在の定員枠が少ないために受入れを断らざるを得ない状況にあります。また、その他にも重複した利用希望がある場合には、同様の状況が続いているところです。

#### (重点課題に対する取り組み)

・短期入所及びグループホーム利用者の受入れ(短期入所:前年度比+134 日)  
・利用希望者が重複した場合には、レスパイト利用など緊急性を伴わない事案については、日程の調整等を行い、優先順位を決めて対応しました。  
・複数名の車椅子利用者が利用を希望された場合には、職員配置を手厚く行い対応いたしました。

## 2. 各事業所の取り組み

### (1) < 施設入所支援 > 定員:40名

・健康面、余暇活動(ドライブ、ビデオ鑑賞、カラオケ等、外出(買い物、食事))を充実させ、利用者が安心して楽しく生活できるように工夫をして支援を行いました。(前年比収入: +2, 936, 399円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所している利用者の日常的な生活の支援(食事介助、入浴介助、排泄介助、余暇活動、相談等)を行い、利用される方の安心と連携を図りながら支援を行う。</li> <li>・利用者の重度化、高齢化における課題の解決の為に、研修や外部講師を招きながら個々のニーズにあった支援を行う。</li> <li>・ご本人、ご家族のニーズに対応できるように職員のスキルを高めると共に、個別支援計画書を作成し、日中活動として利用する事業所と連携を図りながら支援を行う。</li> </ul>	モニタリング、個別支援計画に沿った本人にあった支援 支援目標達成の為にスキルアップ支援 日中、夜間において食事、排泄、歯磨き、入浴、移動の介助、見守り 利用者の気持ちに寄り添いながら生活に関する相談や助言 余暇の提供、カラオケ、ドライブ、ビデオ鑑賞、外出、買い物等 利用者の高齢化、重度化に伴う器具(ベッド)購入や介護用品の購入 入浴後に毎回、身体チェック確認、治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の健康面に関して、看護師、管理栄養士と連携を図り個々の支援内容に合わせて栄養ケア計画を行った。</li> <li>・利用者、職員が感染症に掛かってしまった。</li> <li>・個々の相談員と連携を図ることでご家族への信頼関係が構築された。</li> <li>・担当支援員がより深く担当利用者に関する事で利用者の安心に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の高齢化、重度化により、リハビリ道具、器具の購入が必要。(介護用ロボット)</li> <li>・利用者の高齢化、重度化に伴い、年間行事の簡素化と活動内容の変更が必要。</li> <li>・利用者の高齢化、重度化に伴い、支援不足、各部署との連携。(支援員の仕事内容の確認)</li> </ul>

### (2) < 生活介護事業 > 定員:46名

・班別活動(ミラクル班、サポート班、スマイル班)、生産活動(陶芸)、クラブ活動、レクリエーション、ヘルスタイム、買い物、また、外部講師によるジャンベ活動、など利用者のニーズや希望に応じた支援を行いました。(前年比収入: +5, 789, 910 円)

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護では、利用者が楽しく活動できる日課(班別活動、クラブ活動、レクリエーション、外出支援、年間行事)を計画し、支援します。</li> <li>・利用者のニーズに応えるために日課や活動の見直しを行い支援します。</li> </ul>	生産活動、班別活動、全体活動、クラブ活動、ヘルスタイム、レクリエーション、美化活動、外出支援を行います。生産活動班・・・陶芸の作品づくり。ミラクル班・・・園内環境整備、自動販売機の管理、花苗植え、作品づくり、販売等就労Bにむけての取り組み、GHに向けての取り組み。サポート班・・・ウォーキング、生活支援、創作活動 スマイル班・・・リハビリ、身嗜み、ドライブ等 全体活動・・・美化活動、花植え、年間行事(年間行事実施予定) クラブ活動・・・ドライブ、カラオケ、ウォーキング、レクリエーション ヘルスタイム・・・外部講師による健康体操高齢の方のリハビリレクリエーション・・・外部講師による歌や音楽(ジャンベ)や書道、お花、折り紙等 外出支援・・・利用者、家族の希望により、外出(カット、外食、買い物、カラオケ等、ドライブ、地域の公園で過ごす利用者のニーズに応じた外出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、支援員が感染症に掛かったり、お亡くなる利用者がいて、行事が変更になったり、中止になったりした。</li> <li>・外部講師を招いてジャンベを取り組み他事業所のイベントや大島地区ゆうあいスポーツ大会で披露出来たことは大変良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の高齢化、重度化に伴い、支援体制、各部署(医務、給食)との連携が必要</li> <li>・利用者の高齢化、重度化に伴い年間行事の簡素化や取り組み方内容は今後も検討課題 ボランティア活動は復活させたい(海岸清掃など) 少しの外出での気分転換化</li> </ul>

#### ①施設利用状況 ( )は前年度

	定 員	在 籍	欠員年間延日数	外泊者年間延日数	28人(28) 144日(180)
男(人)	20	20	0	入院者年間延日数	5人(5) 82日(169)
女(人)	20	20	0		
計(人)	40	40	0		

②年齢構成 ( )は前年度

年齢 性別	18歳以上 20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 60歳未満	60歳以上 65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳 以上	計	平均年齢
男 (人)	0 (0)	8 (8)	9(9)	2(3)	1(0)	0(0)	0(0)	20人	46.6歳 (45.5歳)
女 (人)	0 (0)	5(4)	8 (8)	2(3)	2(2)	2(2)	1(2)	20人	55.1歳 (55.89)
計 (人)	0 (0)	13 (12)	17 (17)	4(6)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	40人	50, 85歳 (50.54)

③支援区分・施設入所 ( )は前年度

区分 性別	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男(人)	0 (0)	0(0)	1(1)	4 (4)	9 (8)	6 (7)	20
女(人)	0 (0)	0(0)	1(1)	5 (4)	5 (3)	9 (11)	20
計(人)	0 (0)	0(0)	2(2)	9 (8)	14(11)	15 (18)	40

④支援区分・生活介護 ( )は前年度

区分 性別	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男(人)	0	0	3 (2)	6 (6)	12 (9)	6 (7)	27(25)
女(人)	0	0	2 (1)	5(5)	5 (4)	9 (11)	21(20)
計(人)	0	0	5 (3)	11(11)	17(13)	15 (18)	48(45)

(3) <就労継続支援B型事業> 定員:24名

(前年比収入: +9, 246, 029円)

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
<p>&lt;外部環境&gt; 利用者の高齢化が進み、体力的に厳しい状況になりつつあり、今回の定員増を機に平均年齢の若返りを目指します。</p> <p>(取り組み) ・就労意欲のある障がい者に対して、障害者総合支援法に基づく就労維持支援サービスを行い、自立した日常生活または社会生活を営む事が出来るよう、就労の機会や生産活動提供することに努めます。また、今年度は新たに</p>	<p>障がい者への働く場所の提供、及び技能訓練として、農作業や奄美大島の伝統工芸である大島紬織等の生産活動や、施設外就労(奄美市より委託を受けている資源ゴミリサイクル事業)にかかる知識、及び能力の向上を目指した個別支援計画を作成し、半年毎のモニタリングを実施することによって利用者のニーズに沿った計画を実施する事ができました。</p> <p>(工賃向上計画策定について) 平成30年度から令和2年度までの工賃向上計画を策定しました。</p> <p>(定員増員後の利用者平均年齢について) 平成30年3月から利用定員を15名から24名に増員し、利用者平均年齢は49.8歳と昨年度の53.9歳に比べ平均年齢の若返りに繋げる事が出来ました。</p> <p>(作業種目の見直しについて) 農作業については、愛の浜園が所有する農地</p>	<p>・農産物や手工芸製品の生産量を増やすことが出来たが、大きく販路を拡大することは出来ませんでした。</p> <p>・大島紬織りでは2名の利用者で交互に織るように試みましたが、織る力加減が違う事で文様に乱れが発生し、検品にかかると不合格となってしまう事が一度ありました。</p> <p>・施設外就労のストックヤードでの</p>	<p>施設外就労で取り組んでいる資源ゴミリサイクル事業について 昨年の中国による「資源ゴミ(ペットボトル・プラスチック等)輸入規制」により大きく商品価値の下がったペットボトルですが、それにより、大島地区におけるペットボトルも行き場を失い、奄美市が定期的に回収していた以外のペットボトル(各自治体や企</p>

<p>今後3ヵ年の工賃向上計画を作成し利用者全員の工賃向上に努めます。また、利用者のニーズに応えるために作業種目の見直しを検討いたします。</p>	<p>を活用し、今まで以上に多様な農産物の生産に取り組む事で利用者が携わる事が可能な作業種目を増やす事が出来ました。また、手工芸においては新たな作品作成（ペーパークラフト等）に取り組む事で、同様に利用者が携わる作業種目を増やす事が出来ました。</p>	<p>分別作業が繁忙期に約6ヶ月持ち越すことになりました。</p>	<p>業が回収していたペットボトルも今後は行政である奄美市に回収が課せられ回収される量が大幅に増えています。それにより、分別作業の量（週間単位でのノルマ量）も大幅に増えており、今後は課せられた分別作業量に応じた、職員及び利用者による作業処理能力の確保が課題となっています。</p>
---------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) <短期入所・日中一時支援>

・車椅子利用者の複数名の受け入れを可能にするために、職員を手厚く配置するなどの取組をおこない対応しました。

短期入所(前年比収入: +361,783円)、日中一時(前年比収入: △168,570円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
<p>・在宅で生活されている利用者の短期の希望が多く、地域で生活する方のニーズに応える為に、相談支援専門員と連携を図りながら、ご家族の負担軽減を行う。</p> <p>・各市町村が利用決定した方々が対象で、現在は、奄美市、大和村と契約を結び、障がい者（児）の日中における一時的な見守りや日常的に支援が必要とされる利用者のご家族の負担の軽減、また、本人の社会との繋がりや居場所がない場合の一時的な支援の受け入れ、その利用者のニーズに応じたサービスを提供する。</p>	<p>短期利用(4月～3月利用延べ日数: 649日)</p> <p>・男性6名、女性6名</p> <p>●日中一時利用(4月～3月利用延べ日数: 164日)</p> <p>・男性4名、女性1名</p>	<p>・短期入所・日中一時利用者の余暇の充実を図る必要があった。</p> <p>・短期入所利用時の忘れ物は前年度に比べると減ったが、まだいくつかみられた。</p> <p>・利用したい方が増える中、定員がいっぱいで利用できないことがあった。</p>	<p>・カメラなどで預かり品のチェックをして、利用者の私物の保管、管理を確実にを行う。</p> <p>・安全かつ快適な施設利用が出来るように支援を行う。</p> <p>・短期利用中は、毎日体調確認を行い、体調不良時は家族と連絡を密に図り、対応をしていく。</p> <p>・利用が増える中、ハード面、定員枠が整わない</p>

・利用状況

( )は、前年度

	契約人数	利用日数	理 由
短期入所	12人 (12人)	649日 (515日)	・在宅での生活が難しい方の利用・退院後の行き先がない方の利用 ・家族からの虐待での受け入れ(安全面の確保など)
日中一時支援	5人 (5人)	164日 (225日)	・ご家族の介護の軽減 ・本人の希望

(5) <フレンド> 定員22名

活動報告

- ・町内の行事(敬老会・豊年祭・毎月の市民清掃)や知根小学校の学習発表会、市主催の行事へ地域の一人として参加しました。
- ・月1回、自治会を開き、利用者の意見を聞き、改善できる点は要望を取り入れました。
- ・利用者の要望に応じて、単独での外出やホーム全体での外出を計画し、必需品の買い物、外食を楽しみました。他ドライブ、カラオケなど、余暇時間の充実を図りました。(前年比収入: +12, 015, 840円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
<p>・利用者の社会参加と自立を目指し、生活の質や生活力を向上させることが出来るように支援を行う。</p> <p>・地域の行事に積極的に参加し、地域の方との交流を深め、地域の一人としての自覚を持って生活出来るように支援を行う。</p> <p>・余暇支援、外出支援の充実を図る。</p>	<p>(地域社会との連携) 地域の豊年祭、敬老会、町内清掃作業等地域行事 知根小学校運動会、学習発表会</p> <p>(他事業所との連携) 納涼大会、奄美祭り花火見学、運動会、感謝祭、新年会、遠足、地区・県の障害者スポーツ大会参加 (市町村イベントへの参加) 大和村まほろばウォーキング、奄美市節分祭、まなびフェスタ(利用者の支援)</p> <p>月1回、世話人、支援員の会議を実施した。利用者支援やホームの管理面などの話し合いを持ち、問題点、改善点を共有し、支援に取り組んだ。月1回、自治会の話し合いを持ち、利用者からの要望を聞き、改善できる事には対応した。&lt;食事メニュー等&gt;</p> <p>夜勤者による巡視 戸締り確認(毎日) 金銭出納帳の確認及び生活上の相談 健康管理(月1回の健康相談、定期受診・歯科) インフルエンザ予防接種、奄美市ガン検診、複合検診、医務、栄養士と相談、連携を取り食事療法と朝、夕のウォーキングなど、生活の中で習慣として取り組めるよう支援した。 苦情処理、安全点検、水質検査、避難訓練&lt;2回実施&gt; 個別支援計画に基づいた支援 健康管理、余暇支援、対人関係、身嗜みなど</p>	<p>*利用者の高齢化に伴い、転倒、怪我のヒヤリハット報告、服薬間違い、服薬忘れなどの報告が多かった。</p> <p>ヒヤリハット—23件 事故報告書—3件 大島支庁への報告—4件 話し合い事案—3件</p>	<p>*服薬管理一粟の管理を徹底し、誤薬、与薬忘れを無くす。</p> <p>*健康管理一定期受診、ガン検診、歯科、眼科(入院、手術への対応)</p> <p>*利用者同士の間関係、職員との関係</p> <p>*余暇の充実を図る。</p>

(6) < 指定特定相談支援事業「ていだ」 >

- ・平成30年度は契約件数が175件近くになりました。(前年比収入: +4, 795, 020円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
<p>①相談員が3名になり、特定事業所加算(1件につき300P)を目指す。</p>	<p>①相談支援専門員(専任2名、兼任1名)の申請を行い、請求額が増加できるように取り組んだ。</p>	<p>①H29年度の請求額(5,657,490円)→H30年度の請求額(9,371,270円) 3名体制加算で請求額が大幅にアップした。しかし、今年度は、3名体制で取り組む予定であったが、なかなか3名体制が定着できず、業務が詰まる事が多かった。</p>	<p>・相談支援専門員の育成</p> <p>・スキルアップ</p> <p>・安定した体制(3名体制)</p>
<p>②相談契約が増加できるように努力する。</p>	<p>②現在の契約者を維持しながら、新規を受け入れる努力をした。</p>	<p>②昨年は169件、今年度175件。新規も受け入れてきたが、病気や事故で亡くなる利用者さんやサービスや事業所を希望しない利用さんがいた為、契約から離れる事になり思うように件数が増えなかった。</p>	<p>※H31(令和元年度)は、相談業務の加算を取得することができなくなるため、請求額が下がると考えられる。</p> <p>・加算を得るための研修(出張等)</p>
<p>③行政や他事業所との信頼関係の構築。</p>	<p>③行政や他事業所と信頼関係を構築する為、連絡、訪問等を多くし、連携を図った。</p>	<p>③行政や他事業所と信頼関係を構築する努力を行い、園への短期入所の人数が増えた。</p>	

平成30年度 請求額 平成 30年4月～平成 31年3月

平成30年度 請求額 (平成30年4月～平成31年3月)						
月	新規 利用計画	(改) 利用計画	モニタ リング	計画金額	モニタリング	月合計
4月	1	36	1	741,330	18,070	759,400
5月	5	21	18	539,960	325,870	865,830
6月	2	18	28	403,680	528,750	932,430
7月	1	7	34	171,300	644,410	815,710
8月	1	10	16	244,070	301,970	546,040
9月	0	15	24	315,030	456,070	771,100
10月	0	11	33	233,410	621,160	854,570
11月	0	15	31	314,150	596,890	911,040
12月	0	2	26	43,160	510,230	553,390
1月	1	9	22	254,760	429,110	683,870
2月	2	7	25	195,010	484,460	679,470
3月	1	4	45	107,130	891,290	998,420
合計	14	155	303	利用計画	モニタリング	合計
				3,562,990	5,808,280	9,371,270

(7) <実習受入れ>

- 奄美看護福祉専門学校及び大島養護学校の実習を定期的に受け入れました。  
大島養護学校実習については、将来の利用に結びつくことも考えられます。

受入れ先	実習期間	人 数	計 (延人数)
奄美看護福祉専門学校	・ 5月 7日～17日 (10日間)	男性2名	20名
大島養護学校	・ 6月18日～29日 (10日間)	男性1名	10名
	・ 11月12日～22日 (9日間)	男女各1名	18名
計	29日	5名	48名

(8) <保健衛生>

- 訪問歯科は週2回で、幅広く口腔内の把握、ケアはできたが、口腔内食渣多く、歯肉から出血するなどブラッシングが不十分な方に関しては通年で利用しました。治療困難であった利用者が、回数を多く利用し、声掛けによって受診できるようになってきました。今後も、個人に合った口腔ケアを学びながら、支援員へ伝達することが重要と考えます。
- 服薬管理は職員間のダブルチェックの徹底を周知するが、服薬ミスが数件あり、その都度話し合いをもち、対策に努めました。
- 医療機関との連絡、調整を行い、支援員付き添いのもと島外での白内障手術を2件行いました。
- 2月～3月インフルエンザ施設内発生。流行期に職員からウイルスの持ち込みを防止できず蔓延した可能性が考えられます。早期に感染症予防対策委員会で情報共有、対策を話し合い、感染者を最小限にすることができました。

		内科	精神科	整形外科	脳外科	外科	耳鼻科	皮膚科	眼科	歯科	婦人科	泌尿器科	計
通院治療 (人)	今年度	142	488	9	0	4	25	80	49	590	4	4	1395
	前年度	160	521	2	1	3	22	93	34	394	2	2	1234
入院治療 (人)	今年度	4	2	0	0	1	0	0	2	0	0	1	10
	前年度	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	7

※数字は年間延べ人数

### 3. 相談・苦情解決

計画	相談・苦情内容	反省	課題
<p>・施設のサービスに関して、利用者、ご家族の相談や要望真摯に受け止め誠意をもって対応する。</p> <p>・施設入所、グループホームの自治会の話し合いの中からサービス向上に向けての意見を聞く機会を作る。</p>	<p>苦情件数 (平成30年度 計20件)  <u>5月2件</u> <u>6月1件</u> <u>7月3件</u> <u>8月5件</u> <u>9月5件</u>  <u>12月1件</u> <u>1月2件</u> <u>3月1件</u></p> <p>&lt;相談・苦情内容&gt;</p> <p>●個人的な要望(毎日、ジュースが飲みたい・いのししを食べたい・カラオケをしたい・墓参りをしたい・料理を習いたい・住用の園に行きたい・三味線を習いたい・グループホームには、小さいスプーンしかない為、大きなスプーンがほしい・花火大会の時にピアガーデンで飲みながら、花火を見たい・フレンド1のホームの人達と外出したい・フレンド2の電気ポットを大きな物に替えてほしい・施設のカラオケの曲を増やしてほしい・パンの日を増やしてほしい)</p> <p>●職員への要望(・夜間、グループホームの見回りで、「遅くならないでね。」等の声掛けをしないでほしい・部屋にいても、廊下にいても遠くから大きな声が聞こえると嫌な気持ちになる)</p> <p>●施設、GHへの要望(園内の芝生が歩きづらい部分があり倒れそうになる・自動販売機の修理をしてほしい・行事予定は、手紙で解っているが、自分自身も忘れる事が多い為、事前に電話を貰えたら嬉しい(ご家族)・グループホームで使っている物干し竿が壊れているので、取り替えてほしい・網戸を閉める音がうるさいので気をつけてほしい)</p>	<p>・相談苦情の要望については、要望者の意見を確認しながら、検討する事ができたが、個人的な要望があり、その場だけの意見も多かった。</p> <p>・意見の吸い上げは、各自治会や普段の生活の中で聞き取る機会もできた。</p>	<p>今後は、個人的な要望をどのように捉え対応するかを検討していく。</p>

### 4. 防災

計画	相談・苦情内容	反省	課題
<p>・毎月、防災訓練を行う。</p> <p>・年2回(6ヶ月の間隔を置く)の総合防災(うち1回は消防署立会い)、地震による避難訓練、津波による避難訓練、不審者対策訓練、風水害訓練を行う。</p> <p>・避難訓練は、夜間2回を含み、早朝、日中、夕方を想定した避難訓練を行う。</p> <p>・年1~2回、フレンド(G・H)の避難訓練を行う。</p> <p>・毎月園内とグループホームの安全点検を行う。</p> <p>・緊急時には福祉避難所として多目的ホールを開放し、地域住民の受け入れを行う。</p> <p>・施設職員が救命講習を受講し、施設で救命講習を実施する。</p>	<p>・防災訓練を行う。</p> <p>普通避難訓練 9回(早朝:1回、日中:5回、夕方1回、夜間:2回)</p> <p>総合防災訓練 2回(自主訓練:1回、消防署立会い:1回)</p> <p>不審者対策訓練 1回</p> <p>地震・津波対策訓練 3回</p> <p>フレンド(G、H)避難訓練2回</p> <p>・知名瀬町内会との合同避難訓練を行い、その後に講習会を行った。</p> <p>・下水清掃は毎週行った。</p> <p>・安全点検実施。必要な工事や修理を進めた。</p> <p>・災害用品の購入を行った。</p>	<p>・知名瀬町内会と協力して、地域の避難所への避難訓練を行う事が出来た。</p> <p>・園内感染症が発生し、避難訓練行えない月があった。</p> <p>・救命講習が実施できなかった。</p>	<p>・何月にどの訓練をどの時間帯で行うか、年度初めに計画を立てて、訓練を実施していく。</p> <p>・必要な物は迅速に購入を進める。</p> <p>・救命講習を年1回行う。</p>

## 5. 会議及び研修

・研修では職員のスキルアップとして、理学療法士による園内研修、利用者個々に応じた介護技術研修を行いました。

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
職員のスキルアップ (利用者の対応) ・理学療法士による園内 研修の開催 ・利用者個々に応じた介 護技術研修 ・オムツの当て方に関す る園内研修 ・外部リハビリ事業所に より、希望利用者の昨日 訓練 ・毎月の職員研修会を行 い、情報共有を図る ※出張報告は、その都 度、出張者が発表する。	4月：新年度事業計画説明 5月：人権擁護についての研修 新任職員研修 6月：新任研修会に参加して 7月：見取りについての研修会 8月：摂食指導者研修会 9月：新任職員研修会 10月： 11月：見取りについての研修会 第二回 リハビリの研修 知名瀬地区合同避難訓練研修会 腰痛対策研修会 理事長と語る会 人権擁護研修・安全運転管理者研修 12月：利用者死去により12月研修会なし 1月：家族並びに施設職員研修会 2月：危機管理研修会 新任職員研修会 大島地区障がい関係施設職員研修会 3月：H31年度愛の浜園事業についての説明 年5日の確実な有給休暇取得について	・1ヵ月前のケース会議では、 次回研修会で発表できるよう に計画を立て報告すること が出来た。 ・参加できない職員への資料 配布もしくは申し送り等全 職員への周知徹底を行った。 ・リハビリについて支援員の スキルを高める為に講師を 招き研修を行うことが出来 た。 ・出張報告は、その都度、出 張者に発表することができ た。 ・看取りの研修を行うことが でき、今後の支援に役立てる 研修になった。 ・年間の計画を立てる事で他 部署と連携して取り組むこ とが出来た。 ・地域と合同で防災の研修を 行うことが出来た。	・高齢化、重度化 についての研修 ・共生社会にむけ て研修 ・職員の質の向上 に向けての研修 ・ロボット導入に ついての研修

## 6. 年間行事

月	日	内 容	備 考
4月	1 19	新年度事業開始 旧桃の節句	・施設入所40名 生活介護46名 グループホーム 22名 就労B事業所 22名 ・生活介護：知名瀬の海岸 就労B：宇検村方面
5月	1 6 21	創立記念日 面会日 鹿児島県障害者スポーツ大会	・記念日を祝う(紅白まんじゅうを提供)、運営方針、支援計画の説明 ・多目的ホールにて 家族会 総会 ビデオ鑑賞 写真展示等 ・利用者(10名参加) ・鹿児島県(知的、身体、精神)
6月	21 21 25	一日遠足 " 知名瀬町内会 敬老会	・大浜海浜公園 奄美海洋展示館 生活介護 ・あやまる岬 田中一村記念館 (就労B) ・公民館(フレンド利用者も招待され参加) 余興にて発表 14名
7月	5 7 21	夏に親しむ(一日遠足) " 愛の浜園納涼大会	・国直海岸：(生活介護) ・名音、大棚、大和浜 (就労B) ・台風で延期の為、多目的ホールにて食事、演芸を楽しむ
8月	3	奄美祭り花火見学	・名瀬新港にて見学
9月	2 13	町内会豊年祭相撲見学 敬老会(園内)	・知名瀬公民館 ・多目的ホール
10月	27	大島地区ゆうあいスポーツ大会	・三儀山陸上競技場
11月	4 18 26	知根小学校60周年記念学習発表会 感謝祭 グラウンドゴルフ大会	・知根小学校体育館(舞台で発表 15名) ・園内(多目的ホール、中庭) ・知名瀬、根瀬部の敬老者とグラウンドゴルフ (6月出来なかった分)
12月	7 13 30	クリスマス・忘年会 餅つき 御用納め	・市内サンプラザホテルにてご家族、町内、講師招く ・多目的ホール
1月	4 19	御用始め 年の祝	・多目的ホール
2月		花見遠足	・インフルエンザのために中止 (生活介護)
3月	29	一日遠足	・瀬留漁港 ビックII (就労B)